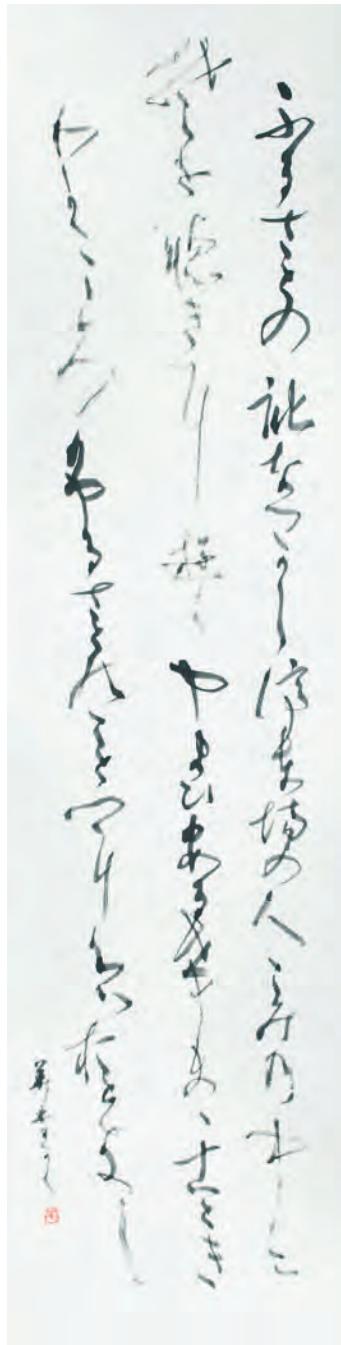


第77回 福岡県美術展覧会 <会員の部>

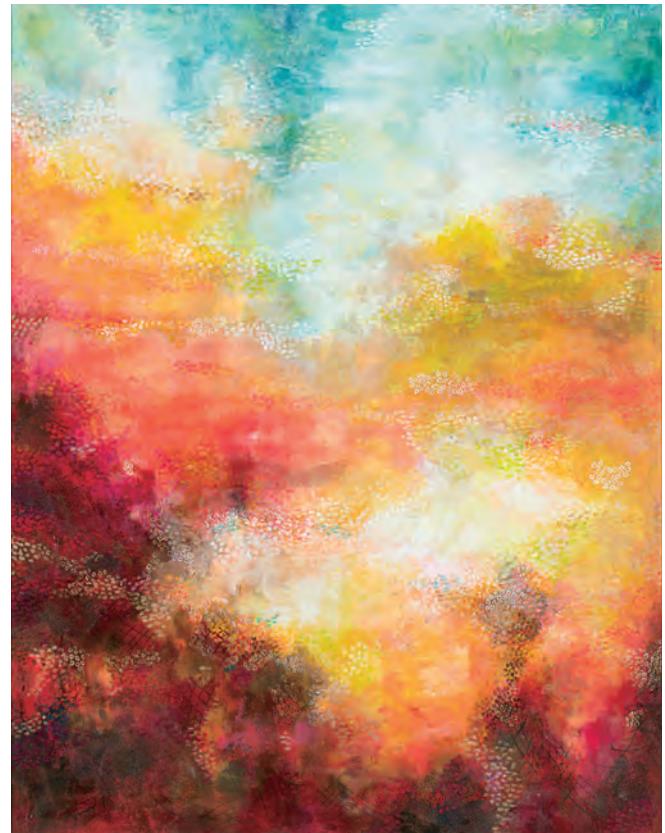


書
「石川啄木の歌二首」
福岡県美術協会賞

石川啄木の歌の心情が伝わる作品にしたい、と思い
ました。
原文を尊重し、変体かなをできるだけ減らし、読み
やすいためと考案しました。美しく、強く、しなやかな
線と、墨の潤滑、文字の大小、疎密感にも配慮しました。
現代にも通じる啄木の孤独感と悲壮感に、手を差し
のべる思いで書き続けたことが忘れられません。

洋画
「alive」
青木寿賞

この度は、青木寿賞を賜り誠
にありがとうございました。
「alive」とこのタイトルには、
生きてるねという意味があり、
抽象的な表現ではありますが、
生命や細胞を意識しています。
まだまだ摸索しながら制作し
て、この田舎ですが、悩しながらも
作品は正に生きていることを実
感しながら描きました。



デザイン
「ポスター」
福岡県美術協会賞

ある時、幼い孫たちの「ラクガキを田にした時、これは、
面白いと思いました。線画の虫の絵でした。ショベル
カー、花火、カエル、骸骨、お化け、怪獣、魚など次々
に描きました。早速パソコンに取り込み、私の好きなよ
うに、CG画にしました。私にとって孫のラクガキは、
大切な宝物です。



田邊 幹夫

面白かったと思いました。線画の虫の絵でした。ショベル

カー、花火、カエル、骸骨、お化け、怪獣、魚など次々
に描きました。早速パソコンに取り込み、私の好きなよ
うに、CG画にしました。私にとって孫のラクガキは、
大切な宝物です。



日本画 峰松 由布子
「Sparkle」
福岡県美術協会賞

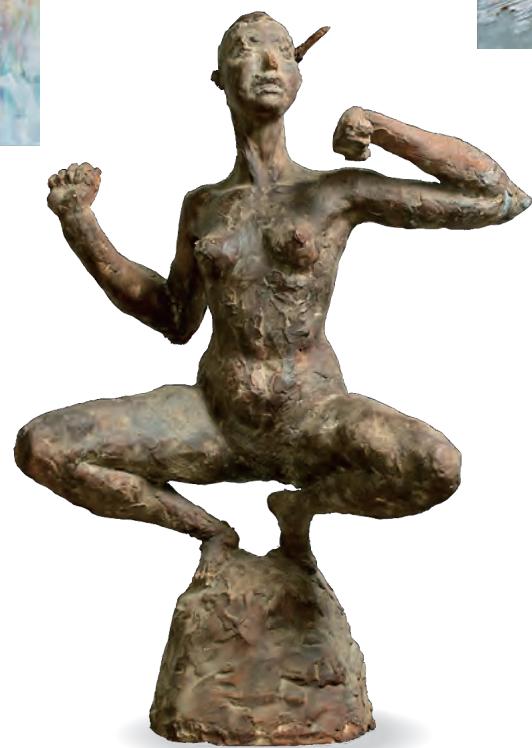
光彩（美しく輝く光）という意味の題名をつけました。夏の自然の中に、瞬間に現れる幾重にも重なる光の粒と、その余韻を表現したいと思いました。強くも優しく、煌めきを感じていただけたら幸いです。

を励みに、今後も制作に精進して参ります。



その時々の新聞、書物などをヒントに想像を膨らませ、思いついでモチーフをキャンバスに描き込んでいきます。今回の絵画は画面に廃棄されたものを配置し、環境問題などの危うさ、解決の糸口が見えない空しさを表現してみました。物語を創り空想の世界を楽しむのは鑑賞する側で、それぞれに物語ができるべきです。

洋画 津國 進
「時の迷路」
福岡県美術協会賞



洋画 原 信之
「Leon's afternoon」
山本文房堂賞

思いがけず、素晴らしい賞をいただき、関係各位の皆様方に心より御礼申し上げます。最近は、顔ばかり描いております。様々な顔を描きながらも、全ては自画像なのかな？とも思います。絵は、これからも日々摇れ動く弱き自身の心を映し出す鏡のようないわゆれません。描く事で、救われてみたいでしょ。日々精進致します。



彫刻 灰塚 みゆき
「夜風に乗って」
安永良徳賞

作品を制作していく際に、「今作ってごめん」の像に、命が吹き込まれ、動きだしたら楽しいだらうだ」と思うことがあります。姉のようであり友達のようである私の像が、夜のアトリエで動き出し、おしゃべりして一緒に遊び回ることがやきたら、なんて樂しかったかうとワクワクします。

書 宮崎 紫穂
「漢詩」
福岡県美術協会賞

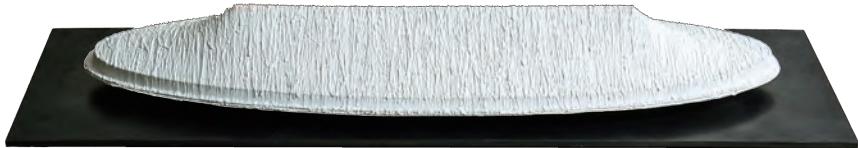
身に余る賞に、今後の作品創作に対する、心の襟を正しておきます。今迄は「四行ものを提出しておしたが、今回は初めて」行に挑戦しました。当然、字数が少ない為一字一字が主役として丁寧に表現して行かなければなりませんが、真摯に謝りたい文字がいくつもあります。今後の課題として取り組んで参りたいと思つております。



「彫刻 湯之原 淳
「内包するかたち
～floating～」
豊福知徳賞

今回の制作においては、外見的な形状だけでなく、その形を形成している内の形、内の空間を意識しました。また、作品を浮かせることで、逆に重力を意識する表現を試みました。

「彫刻的な視点（感性）で生きる」との恩師の言葉の意味を問い合わせた日々。「彫刻はでこぼこのお化けぞ」との師の声が、今日も表現の可能性を探り続ける道を示しています。



「神雷の波」
福岡県美術協会賞
写真 関 智恵子

神秘的な佇まいの海中鳥居、まさに海の神様の参道の様相である。

朝夕夜、潮位などにより変化する景色は何度いつても神秘的です。ポイントは、強風が吹き、黒い雲、雷が鳴り、穏やかな海も波暴れ始める。赤い海中鳥居が波にのまれない時に狙う、地球は神秘。この度は思いもよらず福岡県美術協会賞をいただき有難うございました。



「工芸 白石 栄子
「藍生葉染め 両緞織」
豊田勝秋賞

作品の水浅葱色は、藍の生葉で染めます。生葉染めは、藍を刈り取り、染液を作り、糸を浸し、絞り、空気・水にさらして、緑から青へと変化していく。夏の作業です。両緞織

は、沖縄の織物の技法で、織りを始めた頃から取り組んでいます。

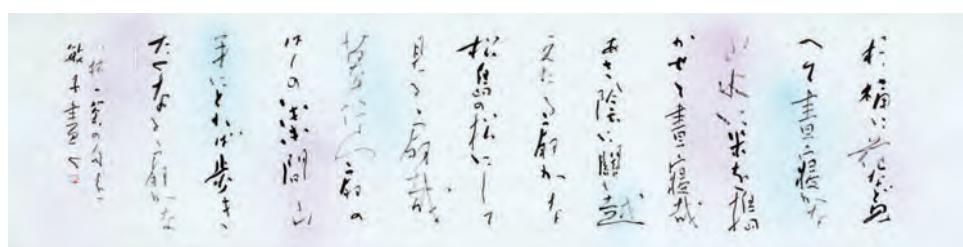
今日は、少ない色数と同色の植物は太陽の光で大きくなる。大きく育つた植物は光の塊で出来ている。動物は植物を食べて生きている。光の塊を食べて生きている動物も太陽の光で出来ている。動物、植物を問わず全ての生き物は光の力で出来ていることに私は気が付いた。全生命体のシンボルとして「光の結晶」を制作した。あなたの体も光で出来ている。

「彫刻 安川 弘造
「光の結晶」
富永朝堂賞



「寂」
山本文房堂賞
日本画 川野 正子

雨上り朝の散歩で、ある松の樹皮の美しさに息を呑みました。宇宙があると思いました。色、形は抽象的世界でした。スケッチは困難を極めても思い通りには行かないものでした。抽象画家の気分でひたすら松の幹の表面を描き続けました。その松は先が曲がりくねり地に着き、起き上がりおり龍の姿に見えます。



「書 緒方 敏子
「小林一茶の句」
山本文房堂賞

会員での初受賞、夢のようです。

一茶の句が大好きで、つい作品にと選んでいます。

墨の潤渴や文字の大字は勿論、それぞれの行間の間のとり方に苦労しました。バランスよく見栄えが有り、心に響く作品が書けるように調和体を追求して参ります。

感謝です。

先生、友人、家族に

お手紙を書いた
ときの筆跡



第77回福岡県美術展覧会 表彰式

大きかったのではと推察しております。公募の出品数は減少を続けております。公募の出品数は減少を続けておることで、2年分の出品数ということもござります。公募から開催の時期にコロナ禍が発生したこともござります。公募の見直しを図り、出品数が大幅に減少した要因として、会員の皆様にも公募への出品のお声がけに加え、ぜひとも県展の改革に前向きなご意見を頂きたいと考へております。どうぞよろしくお願ひを申し上げます。



第77回福岡県美術展覧会 オープニングセレモニー（県知事賞受賞者によるテープカット）

第77回 福岡県美術展覧会を振り返り

福岡県美術協会 理事長 小田部 黃太

会員の皆様、県展お疲れ様でした。また、公募にて出品頂きました皆様、ありがとうございました。お陰様で、充実した実り多い展覧会になりましたと考えております。7部門の受賞作などを拝見しておりますと、福岡県の美術文化の充実を改めて実感いたします。

縁あって我が家と家族になつた老猫のまる。
まる十家族と暮らすいつもの日常は、家族にとつて最も愛おしい「大切な物」。
漆喰をベースに、様々な素材を織り交ぜ、紡ぐ様に楽しんで描きました。
いつも家の何処かで「口」口している、まるの世界を想像しながら…。

佐土嶋 文香
「大切なものの」
山本文房堂賞

佐土嶋 文香
「大切な物」
山本文房堂賞
デザイン

藤本健一朗
「青磁鉢」
山本文房堂賞

この度は山本文房堂賞を授与していただき、誠にありがとうございました。大変光栄に思うとともに、身の引き締まる思いです。今までご指導いただき、また先生、諸先輩方に心より感謝申し上げます。今回、受賞の対象となつた作品は余計な加飾を一切省き、輒轍に集中することことで、自分の考え方行く末を思う為に制作したものです。



写真 森山 峰熙
「雨ニモマケズ」
山本文房堂賞



一日中小雨が降っていた6月でした。下校時間も過ぎ多くの子供たちも帰り、暗くなりかけた頃青い傘をさした女の子がやってきました。傘の骨は逆さま折れ曲がり、足の指に巻かれた包帯は雨に濡れて痛々しく感じました。その子はけなげにも雨の中を黙々と歩み、家路を急ぐ姿は今でも忘れられません。

2022福岡県シニア美術展を終えて

シニア展運営委員会 副委員長 城戸 久美子

コロナ禍3年目の開催では、感染者数が激増し、また例年ない猛暑日が募集締め切り間近まで続きました。更に空調の故障と予想外の事が起きました。いろいろと心配をしましたが、応募総数は502点。昨年より30点増加し今年も豊富な人生経験に基づく味わい深い素敵な作品が出揃いました。

中止しておりました合評会は、密を避ける為に2日に分けて3年ぶりに開催しました。両日とも多くの方が参加され、熱心に耳を傾け、学び楽しみ喜び合う姿に改めて深い感銘を受けました。また、最終日は16:00迄とし搬出をスムーズにしました。

会員並びに関係者の皆様には、蒸し暑く大変な中ご尽力頂きました事心より御礼申し上げます。お陰様で滞りなく盛会の内に終わる事が出来ました。有り難うございました。

※本年度は、県知事賞7部門の受賞者に、江口副知事より県庁にて直接賞状の授与が行われました。



2022福岡県ミニアート知事賞(最優秀賞)表彰式 岩庄にて江口副知事より授与

令和4年 秋の褒章「黄綬褒章」受章をうけて

太田 哲三 (工芸部会員)

私は窯業高校卒業後、目標だった焼物づくりに向かって実家の「太田熊雄窯」で七年間修業に入り、その後分家分窯し、小石原焼窯元として仕事に専念します。

初めて福岡県美術展に出品、初入選。現在は福岡県美術協会正会員として活動させて頂いています。

五十数年間作陶を続けて今も思う事は、自然の材料（土、

水、薪）をいかし、正しく使わせてもらい、「美しく健康な物」をつくり、生活の中に潤いを与えるような仕事をこれからも続けたいというものです。

窯元の仕事は、家族と一緒にくり返しき返しの働きで、出き上がった物を皆で喜び、感謝しながら作陶の道一筋にできた事に嬉しく思います。



令和4年度 地域文化功労者 文部科学大臣表彰

太田 秀隆 名誉会員 (工芸部)

福岡県美術協会に入会し、いつの間にか40年経ちました。何も分からず仕事を引き受け、その後事務局長と役目を重ねる内に、我々福岡県美術協会の役割り、目的を理解する様になりました。

定款の趣旨にあるように、公益法人の根幹である地域文化の発展に寄与する事と共に、会員相互の研鑽と親和を大切にして、協会を盛り立てて行く事に重きを置きながら、これから運営に携わっていただくことを切に望みます。

今回の表彰も理事の方や会員の方のご協力のおかげだと思います。改めて感謝申し上げます。



師村 妙石 (書部会員)

令和4年度地域文化功労者表彰式が、11月15日、秋色に染まる京都御所に隣接する京都府民ホールにて厳粛に行われました。

文部科学省によるこの制度は昭和58年に創設され、芸術文化や文化財に関し、地域における活動を文部科学大臣が顕彰するもので、そこには多種多様な方達が登場されています。過去には、前衛美術の代表格の一人の白髮一雄画伯が受賞されており、新鮮な驚きでもありました。

今春、9時間半にわたる心臓の手術を受け、現代医学の力で、生命を頂戴しました。回復しつつある中での今回の受賞は、私に与えられた使命を果せとの激励ととらえ、地域に根差した芸術活動の継続に努めていきたいと思っています。会員の皆様には、今後共宜しくお願ひいたします。



第30回ふくおか県民文化祭2022 2022ふくおか県障がい児者美術展「絵画・書道・写真」

昨年同様福岡県美術協会より審査及び、ギャラリートークのため美術協会より絵画部に光行洋子さん、書部に矢野菜山さん、写真部に徳永美奈子さんを推薦致しました。

- 11. 8[火]-11.17[木] 福岡県庁 (092-643-3383)
- 11.29[火]-12. 4[日] 九州芸文館 (0942-52-6435)
- 12. 7[木]-12.14[木] 嘉麻市立織田廣喜美術館 (0948-62-5173)
- 12.17[土]-12.18[日] 田川文化センター (0947-44-6470)
- 2023.1.11[水]-1.15[日] 北九州市立美術館アネックス市民ギャラリー (093-882-7777)

福岡県立美術館 「スクール・ミュージアム事業（アートコース）」 美術協会員4名を講師として招聘

福岡県立美術館では、県内の公立小・中・高等学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校の児童生徒を対象に作品鑑賞を通して美術に対する興味関心を高めることを目的としたスクール・ミュージアム事業を実施しています。今回、県展会期中に3校が来館し、日本画、工芸、デザイン、洋画、彫刻、写真などの優秀作品を鑑賞しました。その際、美術協会員の小田部黄太氏、川島幹夫氏、筒井知徳氏、宇美拓哉氏に、作品解説や実演をしていただきました。作品の見方や感じ方へのアドバイス、制作過程の実演など、児童生徒はもちろん、引率の先生方からも大変好評をいただきました。

（福岡県立美術館 普及課 森北さわこ）



理|事|会|の|窓 部会委員改選のお知らせ

任期満了に伴う部会委員改選日程をお知らせいたします。

部会委員選挙投票への積極的な参加をお願いします。

■ 第一回選挙管理委員会開催（投票用紙発送）

…令和5年2月上旬

■ 投票…郵送による

（前回令和3年度投票率：72%）

■ 第二回選挙管理委員会開催…2月下旬

開票及び当選者への連絡（選任承諾の確認）

*開票は、福岡県立美術館関係者1名の立会いの下、選挙管理委員会が行います。

■ 第三回選挙管理委員会開催…3月上旬

各部会当選者の確認及び理事長への報告

■ 理事会開催…3月中旬

新部会委員の承認

■ 新部会委員による第一回部会委員会開催

理事候補の推薦、正副委員長の選定

■ 令和5年度定時総会…6月中

理事の選任及び新三役選定

□ 選挙管理委員会

委員長：村里豊伸（事務局長）

委員：各部会事務局員

（文責：村里事務局長）

部会だより

■洋画部 洋画部会講演会

日時：8月12日（金） 会場：福岡県立美術館視聴覚室

講師：今年度県展審査員 中林忠良（銅版画家・東京藝術大学名誉教授・一般社団法人日本美術家連盟理事長）

演題：「造り手たちの裏側」

今年度の洋画部講演会はコロナ第7波の感染拡大に鑑み、無観客のビデオ収録を県美術協会のホームページで公開することになりました。試行的な取り組みでしたが、卓越した美術家、教育者である中林忠良教授のご指導と事務局のご協力により県展の開始日に合わせたスムーズな公開が出来ました。会員と広く福岡県の洋画家の皆様の自己啓発の一助に繋がれば幸いに思います。

講演は、初めに棟方志功や白根光夫などの作品制作様態や梶井基次郎、泉鏡花、柳宗悦などの著作を例に挙げ、また、ご自身の海外研修体験などを交えて、「芸術作品完成過程において作家一人の役割や責任は底が知れている。最後は他（自然、偶然、神、仏）に任せられている」という日本人に潜むアニミズム的固有の靈魂や死生観、美意識による表現や行動が日本人の作品の国際的な高い評価に繋がっていることについて言及されました。

次に、セザンヌ等の印象派以後の画家たちを物心両面で温かく支援していたオーヴェールの医師ガッシュが所有し、ゴッホたちも活用した一台の17世紀型木製銅版画プレス機が100年の

歳月を経て、フランスから日本の教育現場まで辿り着いた経緯を、中林教授が実際にDVD制作に携わったNHKの「東西交流の波」を紹介し解説しました。このプレス機はソフトなアクワチント技法に適するため、パリの長谷川潔に受け継がれ、その後、長谷川の白いレースの表現技法をめぐり、駒井哲郎、中林教授と研究室の若手版画家たち、即ち、「造り手たち裏側」の表現技法研究開発にまつわる交流の経緯を経て、現在、芸大で大事に活用されていることが語られました。

最後に、ご自身の転機になった3時代の作品について紹介し、自作の「造り手たちの裏側」にある様々な想いや考えによる表現方法や素材開発などの実体験を語られて講演を締め括られました。

この歴史的に価値のある版画プレス機の流転物語は経済的な富や権利の追求から距離を置いた「造り手たちの裏側」の純粋な心と心の交流がもたらした、プレス機にとってもハッピー エンドな幸福な物語であったように感じました。

報告 宇田川宣人（福岡県美術協会洋画部理事）

■書部 書部会講演会

10月2日、県展表彰式終了後、同会場で講演会を実施した。講師は、読売新聞社の元文化部長で編集委員の菅原教夫先生。先生は日展書部の外部審査員もされている。演題は「書の現在」で、書が置かれている現状を踏まえ、先生が注目された最近の作品を挙げ、その理由と解説があった。また古典作品の紹介と共に、それから学ぶことの大切さについても説明がなされた。そのことを通して、既成の書風からの脱却が重要であることについて再認識することができた。

参加者は約200名だった。書部では、これまで講演会を開催してきたが、コロナ禍の影響で中断し3年ぶりに再開した。会員、愛好者同士の相互研鑽と親和を図ることができる有益な機会となった。

鐘ヶ江 勢二（書部会委員長）



奥園久治さん 安らかに

福岡県美術協会 名誉会員 木戸 龍一（彫刻部）

彼と私とは福岡学芸大学(現・福岡教育大)の同期生です。年齢は彼の方が一つ二つ上です。

その頃(約六十数年前)、世の中は、60年安保反対や何やで学生運動が盛んな時でした。

彼は学友会の中心人物として活躍していましたので大変遙しく見えました。私は学生運動には一応期待していましたが普通に絵の勉強をする学生でした。

或日、近くのスタンドバーで二人で飲んでいた時、ちょっと盛り上がって「学生の歌声に若き友よ……」と歌い出したところ、向うの方で飲んでいた〇〇新聞社の社員と称する三人組がいきなり店のイスを振り上げて「お前達のようなヤツが居るから……」と襲って来ました。何が何やら分らないまま、来るなら来いと外に出て私は相手の一人を投げ飛ばし次は誰

だ!! と構えていると急に奥園さんが「木戸さん逃げましょう」と言って彼のバイクで彼の下宿先まで逃げました。

こちらの方が優勢だったのに何故逃げたのか? と不思議でしたが、翌朝目がさめると彼はもう〇〇新聞社にお詫びに行って、昨日の三人組ともその上役とも仲直りして来ましたと言う。彼はあまり説明はしなかったが、あのまゝ喧嘩を続けていたら怪我人も出ただろうし警察沙汰になったかもしれないし……。彼はきっちりとした大人だなあと感心するばかりでした。

その後、彼とは住居も職場も離れていましたのであまり会う機会も無く、たまに美術館で会う程度でした。

彼の作品は、一時、アクリル板と鏡を使って

令和4年7月6日逝去 86歳



虚空間と実空間との関係を追求する哲学的でもありコミカルでもある作品を造り、県展や中央団体の二紀展などにも出品し注目されていました。

私も、一時期アクリル板を使って三次元を超える作品を造りたいと思っていましたので、何か共通なものがあるのかなと思っていつも彼の作品を観るのを楽しみしていました。

彼にとっても私にとっても彫刻するということは、三次元の世界を追求し、また三次元を超える世界をのぞき見たいという欲求を満たす為の唯一の手段ではないかと思います。

彼は私より先にその何かを見つけだしていったのではないかと思われます。

奥園さん、私はまだ彫刻します。

株式会社 夔本建築設計事務所

代表取締役 一級建築士 夔本六助

■福岡県バリアフリーアドバイザー ■耐震診断 ■被災判定士

事務所

〒812-0023

福岡市博多区奈良屋町

14番3-903号

TEL092-271-5754

FAX092-291-2507

〈賛助会員のご紹介〉

多くの企業の御支援をいただいている。

- 九州電力(株)
- (株)福岡銀行
- 西部ガスホールディングス(株)
- 西日本鉄道(株)
- (株)西日本シティ銀行
- (株)九電工
- 九州旅客鉄道(株)

朝日自動車(株)	(株)テレビ西日本
(株)味の兵四郎	東美 福岡店
ASOポップカルチャー専門学校	長門博之法律事務所
有澤ホールディングス(株)	(学)中村学園
(株)岩田屋三越	(学)中村産業学園 (九州産業大学・ 九州産業大学造形短期大学部)
(株)ヴォイス	(株)中村美術堂
(株)ACR	日本デザイナー学院
(株)エターナルラボ	(株)博運社
大松隆税理士事務所	筥崎宮
北九州書道協会	晩香堂
(株)喜多屋	(株)樋口工業
ギャラリーSEL	福岡芸生美術会
(株)久原本家グループ	福岡ロジテム(株)
健康住宅(株)	(株)平助筆復古堂
(福)さわやか会	平成美術(株)
(株)サンビルテックシステム	墨扇堂
(株)上海堂	(株)みぞえ画廊
祥文社印刷(株)	ミナミ画材
(資)書材の丸大商店	南谷総合法律事務所
(株)新出光	(株)山本文房堂
(株)杉田写真館	文房四宝 和美創
(株)ゼンリン	(株)ワン・オフ
太宰府天満宮	
タマホーム(株)	

慎んでお悔やみ申し上げます。

- 奥園 久治さん (86歳) 名誉会員(彫刻部) 令和4年 7月
- 片岡 覚さん (92歳) 洋画部会員 令和4年 8月
- 金光 陽子さん (85歳) 日本画部会員 令和4年 8月
- 田原春 紫鳳さん (71歳) 書部会員 令和4年11月

福岡県立美術館

寄贈記念展 野見山 晓治

2022年12月17日(土)～2023年2月12日(日)

会期中一部展示替え 前期12月17日～1月15日、後期1月17日～2月12日

美県
けんび
ウォッチング

福岡県立美術館は、2020年に野見山曉治氏から油彩画37点を寄贈いただいたことを記念して「寄贈記念展 野見山曉治」を開催します。その後も炭鉱関連のデッサンなどを受贈したことによりその総点数は50点に上りました。

今回寄贈の油彩画は、1946年から2011年まで制作された、画風の変遷を豊かに物語る作品群です。特に、今回の寄贈の目玉である、90年代以降の絵画のダイナミズムを發揮させる圧巻の作品群は必見です。今なお自らの絵画表現に挑み続ける野見山の真骨頂ともいえる作品群です。また、終戦直後、空襲に焼けた福岡市内の風景を描いた《焼跡の福岡県庁》、故郷筑豊のボタ山の風景を描いた「廃坑シリーズ」などの福岡県にゆかりある作品もご紹介します。加えて、代表的な既収蔵作品である《廃坑(A)》《蔵王》など、そして本展開幕日に102歳を迎える野見山氏からの特別出品の最新作を含めた約60点でその歩みを展観します。ぜひ会場で、野見山芸術の世界観をご覧ください。

(福岡県立美術館学芸員 岡部 るい)

野見山曉治《言いたいことばかり》2006年 油彩・画布
福岡県立美術館蔵



第106回二科展 内閣総理大臣賞を受賞 田浦 哲也 (洋画部会員)

洋画部の田浦哲也会員(公益社団法人二科会常務理事)が、第106回二科展において、内閣総理大臣賞を受賞しました。受賞作品は、タイトル『宇海の差值』172.0x260.6(cm)の大作です。第102回展の東京都知事賞につづいての受賞となりました。

《作品自評》

海から上がって、進化をつづけてきた人類は、医学の進歩により、死を免れ、まるで死後を生きているかのような錯覚にさえ襲われます。このように人類は自然な成り行きを変更したり乗り越えてきたように思います。ところが、ふと見えない未来を垣間見たら、進化の過程の遠い過去の自分のしづか映っていた…そんな先行きの見えない不安な時代を描きました。



日中文化交流の理想像

矢野 莉山 (書部会理事)

10月20日の読売新聞全国版(文化面)に同社編集委員・菅原教夫氏による記事が5段抜きで大きく掲載された。久々に開催の書部会講演会(講師:菅原教夫氏)からはじめり、日中文化交流に永年貢献されてきた書部会顧問・師村妙石氏に関する記事であった。師村氏の223回にも及ぶ訪中と諸活動の成果が確実に実を結び、民間レベルでの日中文化交流の理想像を具体的に見せていくとの極めて高い評価がそこには綴られていた。全国からの反響も大変大きな記事であった。



み 緑屋

額装・ラミネート加工・デジタルフォト加工大判出力

TEL 0942-39-3377 FAX 0942-39-3390

天狗印上用粉・もち粉・だんご粉製造元

共栄産業有限会社

相談役 壇上 善一

〒830-0028 福岡県久留米市京町310
TEL0942-32-5019(代表) FAX0942-32-5130

fas gallery

展覧会・出版のご案内

●新型コロナウイルス感染予防・拡大防止のため、
展覧会の中止、または閉館の場合があります。
開催の有無をご確認の上、お出かけください。

第73回 公募西部示現会

■ 令和4年12月6日(火)～12月11日(日)

■ 久留米市美術館 1F

出品受付 12月2日(金)
10時から会員の作品を始め110点程展示します。
ご応募をお待ちしています。
(重富 貞美)



「放課後」秋吉 ヤス子

9人の作家によるR.O.展

■ 令和4年12月20日(火)～12月25日(日)

■ 福岡県立美術館 1F

福岡県美術協会会員(デザイン)園こうじろう、小野多世子、湯浅亮子、垣外波瑠香、他による展示会。(園 こうじろう)



文芸とアートのコラボレーション 天神展

■ 令和4年12月20日(火)～12月25日(日)

12:00～18:00(最終日16:00まで)

■ ギャラリーSEL・山本文房堂

ギャラリー風・ひよこギャラリー天神

主催/福岡文化連盟 092-711-5585

福岡アートビエンナーレ2022 関連企画

変貌する天神の街
をテーマに4つの
ギャラリーで同時開催。
絵画・写真と俳句・詩・短歌とのコラボレーション。
(城戸 久美子)

「新緑の天神中央公園」
八久保 卓爾



新春ドローイング

■ 令和5年1月2日(月・休)～1月8日(日)

■ ギャラリー風

デッサン会の仲間達です。故
小田部泰久先生に御指導
願った七曜舎の人達です。
(宍戸 義徳)



「デッサン」

・えーるピア久留米tel 0942-30-7901
・北九州市立美術館本館tel 093-882-7777
・ギャラリー風tel 092-711-1510
・ギャラリーSELtel 092-741-4890

第15回 福岡市美術連盟 チャリティー展

■ 令和5年1月23日(月)～1月29日(日)

■ ギャラリー風

西日本民生事業団へ寄付を委託します。恵まれない子供達へご協力をお願いします。
(中村 俊雅)

第18回 新春展 —若松書道協会役員展—

■ 令和5年1月25日(水)～1月29日(日)

■ 旧古河鉱業若松ビル2F

若松書道協会役員による書展。年頭の抱負や新春にふさわしい題材で、漢字・かな・詩文書作品。
(山本 飛雲)

中村俊雅と雅友展

■ 令和5年2月13日(月)～2月19日(日)

■ ギャラリー風

中村俊雅門下生の参加希望者が集い、親睦を計り作品についての研究また技術の向上等の情報交換を行う。(中村 俊雅)

森山絹工房展

■ 令和5年3月2日(木)～3月6日(月)

■ ギャラリー一集

安政年間に創業した久留米絹の工房で、父と子で日本伝統工芸展で文部大臣賞、文部科学大臣賞受賞。
(森山 哲浩)

第106回 二科展(福岡巡回展)

■ 令和5年3月14日(火)～3月19日(日)

■ 福岡市美術館
特別展示室

巡回作品+地元作品(福岡県美術協会会員を多く含む)
絵画・彫刻・デザイン・写真4部門約360点を展示します。
(田浦 哲也)

「暮し」 小野 由紀子



18th チャリティー 滝口文吾作品展

■ 令和5年3月28日(火)～4月2日(日)

■ ギャラリーSEL

隔年で行っているチャリティー展。
油彩画「花」を描いた小品展。今回
から新しい会場になります。
(滝口 文吾)

「使者」— カラー咲く 滝口 文吾



第5回 緑人会写真展

■ 令和5年4月4日(火)～4月9日(日)

■ えーるピア久留米 市民ギャラリー

第5回と云う節目に
に当たりますので既発
表作品を主に展示
します。皆様の厳し
いご教導をお願い
します。

(井口 益次)

「陸魚」 別上 忠臣



第89回 独立福岡展

■ 令和5年4月4日(火)～4月9日(日)

■ 福岡市美術館 市民ギャラリー全室

東京展で展示され
た内、会員受賞者の
一部と、地元出品者、約90点の絵画
巡回展。

(鳥飼 壽徳)



「蒼天大地—心に染まる悲しみ」 絹谷 幸二 (200号)

濱田隆志作品展

—スペイン風景を中心に—

■ 令和5年4月24日(月)～4月30日(日)

■ ギャラリー風

スペイン各地の風
景を中心に、油彩・
水彩約25点を展示
します。

(濱田 隆志)



「アルバラン点景」P12 油彩 濱田 隆志

第61回 公募 北九州水彩展

■ 令和5年5月15日(月)～5月21日(日)

■ 北九州市立美術館本館・アネックス市民ギャラリー

北九州水彩画会恒
例の春展。会員、会
友、一般公募の作
品展で、日本水彩展
への登竜門でもあ
ります。

(木原 一郎)



第60回公募北九州水彩展 日本水彩画会支部奨励賞
「下関・小瀬戸の白い漁船」白倉 純

久留米連合文化会

デザイン部 創部70周年記念展

■ 令和5年6月6日(火)～6月11日(日)

■ 福岡県立美術館

3階 1・2展示室

久留米連合文化会デザイン
部は1953年に県内グラ
フィックデザイン界において
いち早く発足し、創部70周年
を迎えます。先達の作品と現
会員の作品を展示します。
(吉本 暢子)



物故者 「鬼夜」 檜枝 泉秀(幹夫)